

目的 被服構成学並びにその指導の立場から、追跡調査法による身体計測実施の予備調査として、中学生の学校身体検査の記録を用いての成長様相の把握について、前報の概況につづき、女子の来潮前後を中心とする成長の状況を観察したい。

資料と方法 資料は前報と同じである。今回は女子について、未潮者・既潮者をわけて、小学校1年時からの学校身体検査記録から、身長・体重・胸囲の3項目の成績をとり、(1) 平均値、(2) 年間増加量について、学校別、学年別並びに全国資料との比較を行って成長の推移を見た。(3) 中学3年につき来潮時を境として個別の成長曲線を項目毎に書き観察し、併せて男子との差も観察した。

結果 (1) 中学1年時の未・既潮者の小学校1年からの成育を学年毎に比較した結果では、既潮者は3項目とも各学年において優れ、成育の早いことが明らかである。(2) 中学1年と2年の未・既潮者を学校別に比較するとB校が3項目ともA校より優れる。(3) 同じく全国資料との比較ではA校は体重で優れるが、身長・胸囲では著差はない。B校は3項目とも全国より優れる。(4) 年間増加量の推移を見ると、既潮者は身長では小学校4・5、5・6年間に、体重では5・6、6・中1年間に、胸囲では5・6、6・中1年間に、未潮者は身長・体重で既潮者よりほぼ1年おくれ、胸囲では同学年でそれぞれ最大増加量を示す。(5) 初潮を境にして成長曲線を画いて個別に観察すると、3項目とも来潮前の1~2年間に急激な上昇カーブを見せ、来潮後は緩慢になる者が多く、この傾向は身長において最も顕著で、男子との差も見られた。